

こんにちは

日本共産党

横浜市議団です

日本共産党
横浜市議員団
2012. 11. 07号

横浜市中区港町1-1(市庁舎内)
電話 671-3032 FAX 641-7100
E-mail: info@jcp-yokohama.com
http://www.jcp-yokohama.com/

横浜市教育委員会編集・中学生用副読本「わかるヨコハマ」

「朝鮮人虐殺」は歴史的事実、再改訂は必要なし

今春、中学1年生に配布された副読本「わかるヨコハマ」2012年度版の改定を巡って、問題が起きています。

産経新聞が問題視

横浜市教委は、「わかるヨコハマ」の関東大震災の記述について、2011年度までは「自衛団の中に朝鮮人を殺害する行為に走るものがいた」としていたものを、2012年度では「朝鮮人に対する迫害と虐殺を行い」「朝鮮人や中国人が虐殺される事件が起きた」と改訂しました(裏面参照)。

これについて、6月25日付産経新聞が「横浜市教委 書き換え」というタイトルの記事で、ノンフィクション作家の工藤美代子氏を登場させて、「議論のある」部分にもかかわらず、改訂したと批判したのが、問題の始まりです。

教育長「誤解を招く部分がある」

7月19日に開かれた市議会のこども青少年・教育常任委員会で、自民党議員がこの記事を取り上げ、「虐殺」という表現は問題だと市当局を追求。山田巧教育長は、改訂の手続きに問題があり、内容にも誤解を招く部分があると、来年度版で「虐殺を殺害にもどすなど」再改訂するなど答弁しました。

「朝鮮人虐殺」は歴史的認識

「虐殺」とは、「むごい方法で殺すこと」(岩波国語辞典)です。関東大震災時に、東京・神奈川を始め関東各地で朝鮮人や中国人、社会主義者や労働運動指導者などが虐殺されたことは、膨大な証言と研究で明らかになっています。わが国の代表的な辞典類でも、「朝鮮人虐殺事件」の名称を使って、「朝鮮人と見ると迫害、虐殺した」(世界大百科辞典、平凡社)、「全国で数千人に及ぶ朝鮮人を虐殺した」(日本国語大辞典、小学館)、「数千人の朝鮮人が虐殺された」(広

辞苑、岩波書店)、「全国で6000余人の朝鮮人を虐殺」(角川日本史辞典、角川書店)と書かれています。

元横浜市立中学校教員の神谷幸男氏は、週刊新聞「新かながわ」で、軍隊や警察による虐殺の記録や証言が明らかな東京方面などと違って横浜ではそのような記録はないが、多くの証言があり、「この点で今年度の改訂は実態に即していると思われる」と述べています。

再改訂不要と大学教授などが市教委に要請

歴史を研究する大学教授など山田昭次立教大学名誉教授ら30人は10月31日、横浜市教委に要請文を提出し、「『虐殺』を『殺害』に書き換えるなどの再改訂は、中学生の正確な歴史の理解を妨げるだけでなく、犠牲者にかかわりをもつ人びとを傷つける行為」として、再改訂を行わないよう要請しました。要請書では、今年度版の記述はすでに実証され定説となっており、「わかるヨコハマ」の今年度の記述はより正確な記述を行ったものと評価しています。

市教委職員が懲戒処分など

「わかるヨコハマ」は、郷土横浜の歴史・自然・社会などについての副読本で、横浜について学ぶ際の補助的資料として活用され、毎年、必要に応じて改訂されています(市教委HPより)。

市教委は、今年度の改訂にあたって、指導部指導企画課長を教育長の決済を得ていなかったとして戒告処分に、また局長級職員ら3名を文書訓戒などの処分に処しました。市教委によると、副読本の改訂にあたっては複数で議論・検討しており、従来は文書決済は行われておらず、今回の処分は異例とのこと。

自民党議員は決算特別委員会で「戒告では甘い」と追求、ヨコハマ会の議員も同調しました。

横浜市教育委員会発行・中学生用副読本「わかるヨコハマ」

関東大震災時の朝鮮人虐殺事件に関する記述

「わかるヨコハマ」2009年～

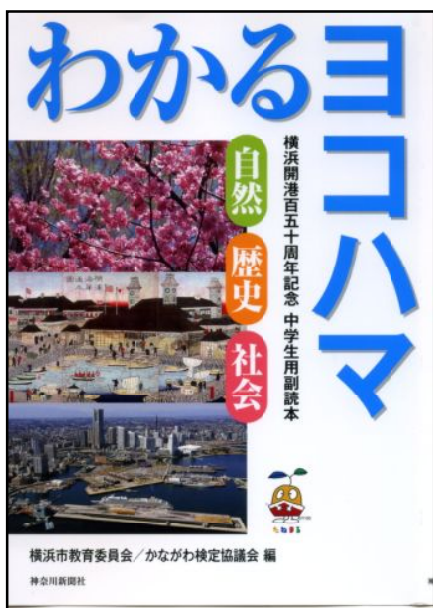
市内のほとんどが潰滅状態になり、火災と余震に襲われ続けた市民は不安にかられていた。この混乱のなかで、夜に入ると、「朝鮮人が井戸に毒を入れる、暴動を起こす」などというデマが流された。警察は地域の治安を守るという名目で在郷軍人会や青年会などを母体にして、町内に自警団を組織させ、武器を貸与した。

三日、政府は戒厳令を発動し、軍隊を横浜に出動させた。理由は自警団の中に朝鮮人を殺害する行為に走るものがいたからである。横浜市内だけでも多数の犠牲者を出してしまった。この事件の背景には大正8（1919）年3月1日に起きた、朝鮮民族の日本の植民地支配からの独立運動（三・一独立運動）等、朝鮮民族の抵抗に対する日本人の恐怖心と差別意識があった。また、軍や警察はこの機に乗じて、暴動の扇動や計画を企てたという名目で、日本の社会主義者や労働運動の指導者を逮捕したり、殺害してしまうようなことも行った。

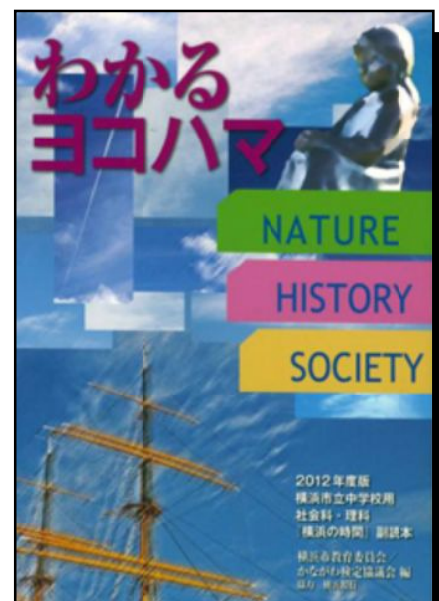
「わかるヨコハマ」2012年

東京や横浜の市街地のほとんどが潰滅状態になり、火災と余震に襲われ続けた市民は不安にかられていた。この混乱のなかで、「朝鮮人が井戸に毒を入れる、暴動を起こす」などというデマ（根拠のないうわさ）が流された。2日、政府は軍隊の力で治安を維持するため東京に戒厳令を適用した。デマを信じた軍隊や警察、在郷軍人会や青年会を母体として組織されていた自警団などは朝鮮人に対する迫害と虐殺を行い、また中国人をも殺傷した。横浜でも各地で自警団が組織され、異常な緊張状態のもとで、朝鮮人や中国人が虐殺される事件が起きた。

この事件の背景には1919（大正8）年3月1日に起きた、朝鮮民族の日本の植民地支配からの独立運動（三・一独立運動）等、朝鮮民族の抵抗に対する日本人の恐怖心と差別意識があった。「朝鮮人暴動」がデマだとわかると、今度は社会主義者に矛先が向けられ、暴動の扇動や計画を企てたという名目で、軍隊や警察は日本の社会主義者や労働運動の指導者を逮捕、場合によっては殺害に及ぶ場合もあった（大杉事件、亀戸事件）。



「わかるヨコハマ」2009年度版



「わかるヨコハマ」2012年度版